

パネルディスカッション

各学校における特別な配慮を必要とする 子供たちの学習評価の現状と課題 ～カリキュラム・マネジメントの視点から～

パネラー

山中 ともえ先生（調布市立飛田給小学校校長）

高岡 麻美 先生（府中市立府中第三中学校長）

朝日 滋也 先生（東京都立大塚ろう学校長）

武富 博文 先生（神戸親和女子大学 准教授）

コーディネーター

横倉 久 （国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部）

学習評価の基本的な考え方

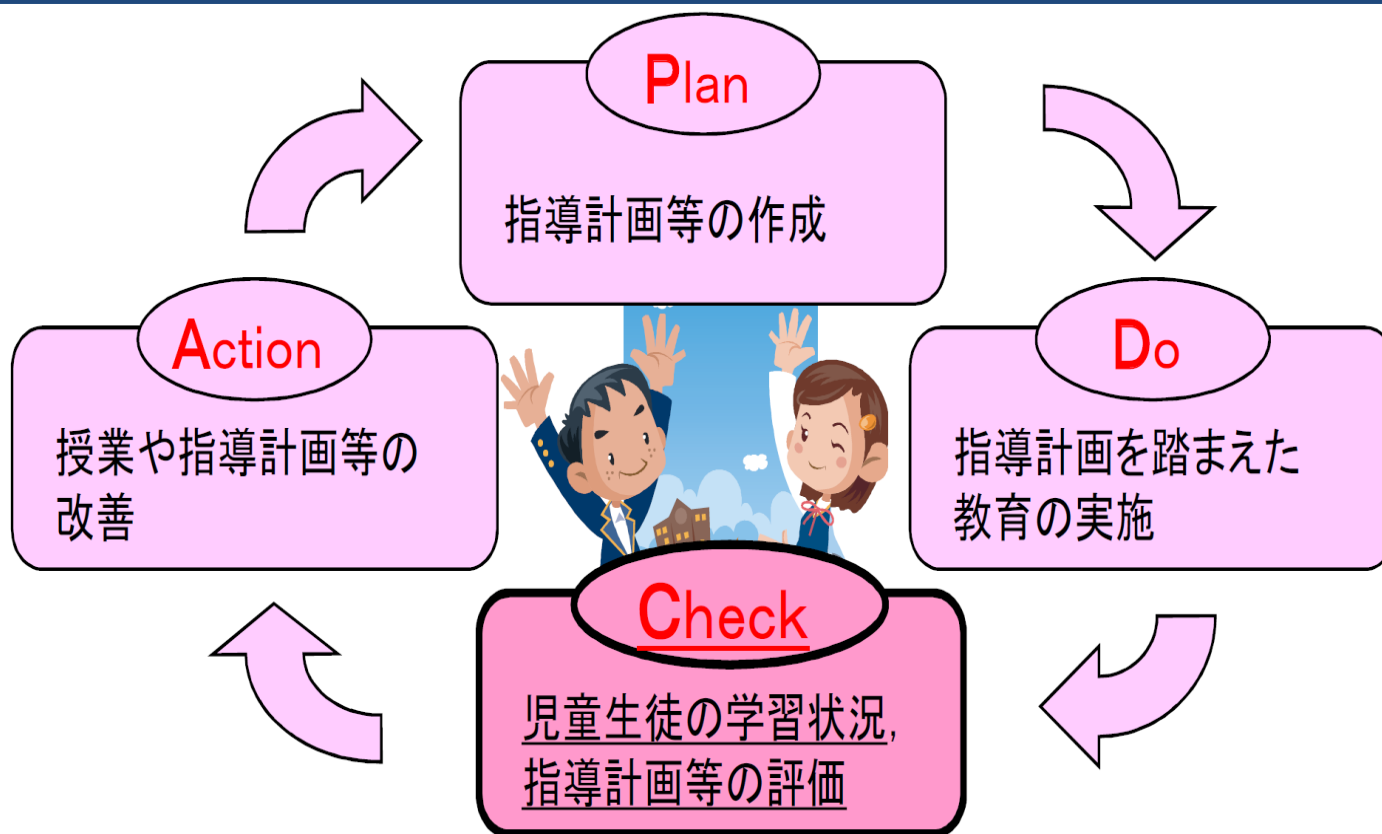
学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するもの。

「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められる。

「学習評価の在り方ハンドブック」(国立教育施策研究所)

カリキュラム・マネジメントの一環としての学習評価

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っている。



児童生徒の学習評価に関する検討の経緯

□平成28年12月21日

「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の
学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」

（中等教育審議会答申）

※学習指導要領の改訂に伴う学習評価の検討については，従来，学習指導要領の改訂を終えた後に行うのが一般的だったが，今回の改訂では，教育課程と学習評価の改善について一体的に検討され，学習評価の改善についても本答申に示された。

□平成31年1月21日

「児童生徒の学習評価の在り方について」

（中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告）

□平成31年3月29日

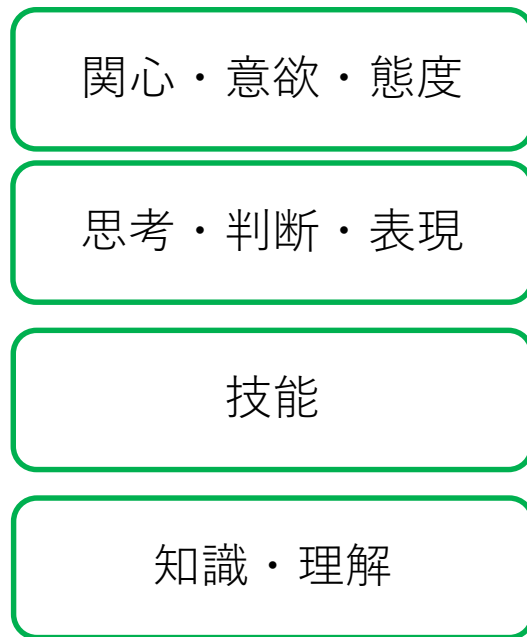
「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における
児童生徒の学習評価及び指導要録等の改善等について」

（文部科学省初等中等教育局長通知）

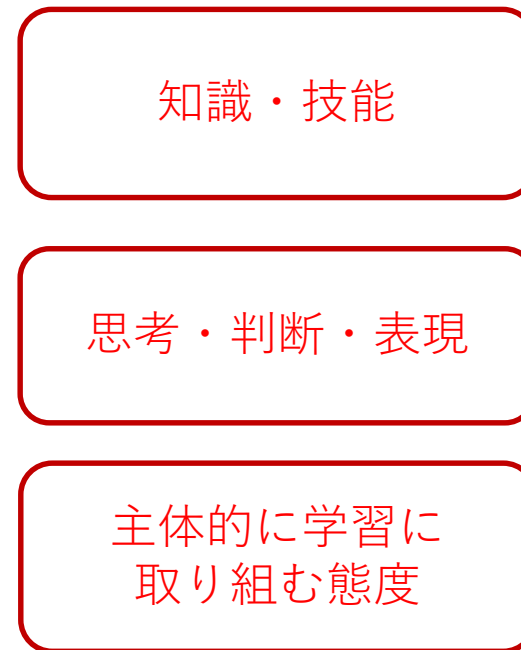
観点別学習状況の評価の観点の整理

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理。

<現行>

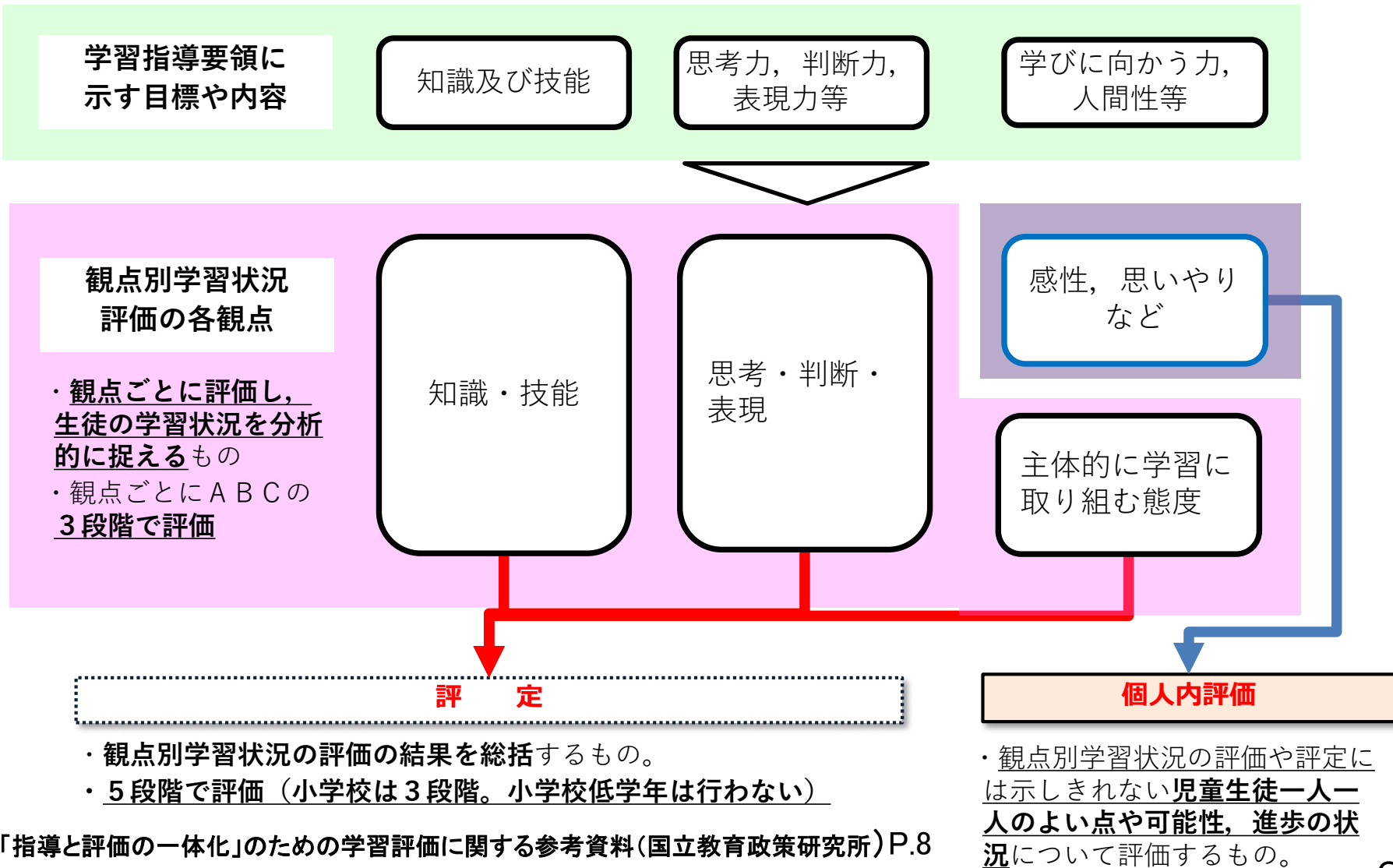


<新>



各教科における評価の基本構造

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



障害のある児童生徒の学習評価の考え方

- 学習評価に関する基本的な考え方は、障害のある児童生徒においても同様である。
- 障害のある児童生徒については、個々の児童生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を行い、観点別学習状況を踏まえた評価を適切に行う。

【参考となるもの・活用できるもの】

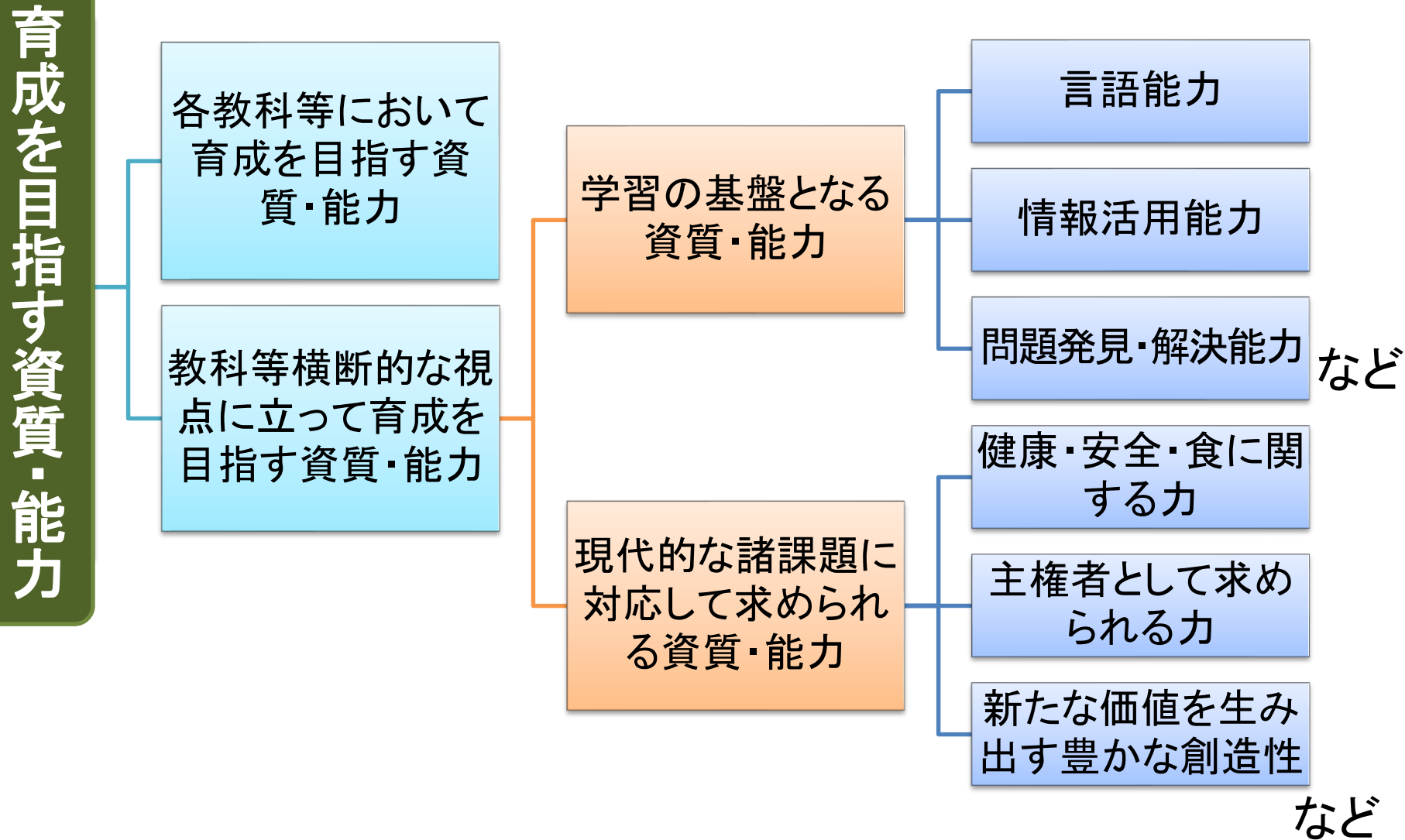
- ◆ 小学校、中学校、高等学校の学習指導要領と解説における障害のある児童生徒への配慮事項
- ◆ 特別支援学校学習指導要領
- ◆ 特別支援学校のセンター的機能（特別支援学校による助言や援助）

等

各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進

各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に**学習の基盤となる資質・能力**（言語能力，情報活用能力（情報モラルを含む。以下同じ。），問題発見・解決能力等）や**現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力**の育成のためには、教科等横断的な学習を充実することや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められる。**これらの取組の実現のためには**、学校全体として、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、**教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努める**ことが求められる。

教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成



「特別支援学校学習指導要領(小学部・中学部)」第1章総則 第3節の2

カリキュラム・マネジメントの三つの側面

- (1) 児童又は生徒や学校、地域の実態を適切に把握
- (2) 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていく

各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた**教科横断的な視点**で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

- (3) 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていく

教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の**PDCAサイクルを確立**すること。

- (4) 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていく

教育内容と、教育活動に必要な**人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。**

- (5) 児童又は生徒に何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、第3節の3の(3)のイに示す**個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫すること。**

特別支援
学校では

パネルディスカッションの趣旨

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。さらに新学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成することが求められています。

新学習指導要領が目指す教育活動の展開において、学習評価は要です。本セッションでは、新学習指導要領が目指すカリキュラム・マネジメントや授業改善の視点から、多様な学びの場で学ぶ特別な配慮を必要とする児童生徒などへの学習評価の現状や課題等についてパネルディスカッションを行います。

登壇者の紹介

山中 ともえ先生（調布市立飛田給小学校長）

調布市立飛田給小学校長、全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会会長、新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議

高岡 麻美 先生（府中市立府中第三中学校長）

府中市立府中第三中学校長、高校における特別支援教育の推進に関する調査研究協力者、特別支援教育マニュアルの作成等校内支援体制の整備を推進

朝日 滋也 先生（東京都立大塚ろう学校長）

東京都立大塚ろう学校校長、全国特別支援学校長会会長、新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議

登壇者の紹介

武富 博文 (神戸親和女子大学准教授)

神戸親和女子大学准教授

研究分野(特別支援教育・教育課程・学習指導・学習評価等)

コーディネーター

横倉 久 (国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部)